

今、あなたと生きて



忘年会、ビールでカンパ～イ！（お酒は20歳になってから）
写真協力／生活訓練つみき

「締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する」とされてい

生活を楽しむ権利は？

18歳以降の生活にとっては、スポーツや音楽のような文化活動を楽しめる場、仲間と自由時間を過ごせる場も重要です。日中に学んだり働いたりすることだけが生活なのではありません。障害者権利条約の第30条でも、「文化的な生活、レクリエーション、余暇及びスポーツへの参加」についての権利が記されています。

障害のある子どもが学校に通っている間は、放課後・休日の生活を支えるものとして、放課後等デイサービスの制度があります。2012年に制度が発足して以降、放課後等デイサービスの事業所は急速に増えてきました。事業所の実態はさまざまで、実践の質に関して課題が指摘されることもありますが、子どもの放課後・休日についての社会的支援は量的に拡大してきました。

ところが、障害のある成人については、外出のためのガイドヘルプの制度などはあるものの、自由時間に焦点を当てた制度が整備されていません。知的障害が重いとされる人のことなどを考えると、放課後等デイサービスの成人版のようなものが必要だと思います。



みかみ ちえ／1987年、毎日放送に入社。95年、琉球朝日放送の開局と共に沖縄に移住。キャスターを務めながら多数のドキュメンタリーを制作。12年の初監督映画『標的の村』公開後、14年にフリー転身。15年『戦場ぬ止み』、17年『標的の島 風かたか』、18年『沖縄スパイ戦史』（大矢英代共同監督）公開。24年3月に最新作『戦雲—いくさふむ—』公開。

映画監督・ジャーナリスト **三上智恵**さん

第5回 戦争へのブレーキをかける

要塞化する島々の記録

映画の公開前に『戦雲 要塞化する沖縄、島々の記録』（集英社新書）を出版します。

2017年から2023年までの南西諸島を中心とした撮影記をまとめた本です。沖縄の島々を歩きまわり、行く先々すべて苦しい状況になっていくばかりだけれど、その苦しさに立ち向かっている人や立ち向かえなくなつた人、両方を取材しました。苦しみ悶えながら、小さな抵抗を続ける姿を見た時に、もう苦しまないで、と思う側が問われるのです。

与那国島では今、また新しいミサイル基地を作るために土地が買われています。島にはとても美しい湿地があるのですが、そこを巨大な軍艦が行き来できる軍港にする予算がついてしまいました。戦争は誰かの頭の中で作り出そうとしている段階であっても、こうして音を立てて島を変えています。急激に軍事費を上げ軍備を増強して、本当は起きないはずの戦争を起こしつつあるのは日本です。そんなことさえなければ、与那国の人たちはこれから先も今と同じ誇り高く豊かな生活を

いものです。

18歳以降の教育・学習に関しては、特別支援学校高等部に専攻科を設置することで、3年間の本科の後に2年程度の学校教育を保障することが求められてきました。また、障害者総合支援法に基づく制度を活用して「学びの場」をつくるとりくみが、全国各地で展開されてきています。そうした蓄積を土台に、18歳以降の教育・学習の場を豊かに広げていきました。